

# ともだちのわ

T O M O D A C H I N O W A

## 特集 世界一周の 船旅体験記



登戸幼稚園



園生幼稚園



植草学園大学附属美浜幼稚園



へいわ幼稚園

### Contents

- P02 巻頭言 児童文学作家 幼稚園 園長 斎藤 惇夫
- P03 千葉市幼稚園協会 研修会
- P06 幼稚園教育研究会(公開保育)を終えて
- P08 世界一周の船旅体験記
- P10 保育室の窓から
- P11 視察研修会を終えて
- P12 おべんとうだあいすき 編集後記



# まず遊ぶこと、そして本を読んでもらうこと



児童文学作家 幼稚園園長 齋藤 惇夫

先年、子どもの本を調べに北欧に行っていた際に、二つの大きな経験をしました。ひとつは、リンドグレーンの自伝の中にある言葉「遊んで、遊んで、遊んで、遊び死ななかつたのが不思議なくらい！」が、ほとんど子育ての合言葉のように、スウェーデンの人々が口にしていたこと。もうひとつはフィンランドではごくふつうの家のふつうの父親が、誰でも、当たり前のこととして、一日15分間は子どもに本を読んでやっていた（10歳、あるいは12歳までと言っていました）ことです。ここに至るまでの両国の教育論、あるいは子育て論は、議論百出、様々あったに違いありません。揺り戻しも、幾度かあったにちがいありません。しかし、ようやく然るべきところに落ち着いた、あるいは、子どもの人権宣言が高らかに（いえ、さりげなく！）歌い上げられ、国民の合意を得て、それが日常化したと言うべきなのでしょう。

これは驚くべきことだ、と私は思っています。日本の現状を憂いてそう思っているのではありません。子どもたちにとって「遊ぶこと」「本を読

んでもらうこと」が、それを目的としてよいほどに、無上楽しいことであるがゆえに、この二つが認められているということに驚いているのです。決して（とは言いきれない部分もあるのですが）集団生活になじむために、とか、将来本好きの人間になるために、とか、人間を知るために、とか、そういう理屈ではなくひたすら今をとことん楽しむために、この二つが大切にされているのです。一体、幼児期をとことん楽しまなくて、どうやって人生を楽しむことができるのでしょうか。人間は、幼児期に遊びの楽しさを経験する（人生を楽しむ術（すべ）を学ぶ）からこそ、また本を通して、目に見えている世界だけでなく、目に見えない世界をも主人公とともに味わい楽しむことによって、ようやく世界が驚きと歓びに満ちていること、そして人生に意味があることを知るのです。

私たちの仕事は、子どもたちに豊かな遊びと遊びの場を用意すること、子どもたちが三代にわたり守り抜いてきた絵本（リストとしては『絵本はともだち』中村稚子著 福音館書店刊の巻末のリストを推薦します）を読んでやり続けること、そこにこそあるように思います。メディアの恐怖は確かにあります。だが、それを云々する前に、私たちにできること、なさねばならないことを、堂々と、淡々と、ひるまずにやり続けるべきです。スウェーデンとフィンランドの選択は正しいのです。





# 千葉県幼稚園協会 研修会

千葉県幼稚園協会では教育・保育力向上を目的として、毎年さまざまな研修会を企画しすべての教職員が参加しています。今年度開催された研修会の報告をいたします。

## 研究部会

平成29年度の研究部会は『子どもの遊びを通じた学びや育ちを考えよう～新しい教育要領の視点を学ぼう』という研究主題のもと、平成30年度に改訂される新幼稚園教育要領について学び合った一年でした。

千葉大学の砂上史子先生には「カリキュラムマネジメントとは何か」を、聖徳大学大学院篠原孝子先生には「幼小の接続」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、聖徳大学の重安智子先生には「自発的に取り組む遊びを通しての学び」などさまざまな視点を通して保育を考え合う機会をいただきました。10月のまとめの会では全国幼児教育研究協会理事長の岡上直子先生から「主体的・対話的で深い学びが生まれる環境構成」について学ばせていただきました。

今年度は研修事業の相互乗り入れを通して保育所の先生方も

研修に加わってください、先生たち同士が交流し合えた充実した研究部会となりました。



砂上先生の話を中心に聞く研究部会の先生たち



テーマに応じてさまざまな園の先生と保育を語り、考え合う

山崎 佳世 (由田学園千葉幼稚園)

## 事例研究会

今年も「インシデントプロセス法による事例研究」を中心にこの研究会を進めていきました。初めて参加した先生もいるなか、グループごとに活発な協議がなされていました。またこの方法を園内での事例検討に活用される幼稚園が出てきたことも嬉しい成果でした。夏の施設見学には今年初めて、ちば子ども発達センターとみつわ台保育園が加わりました。御園園長先生(みつわ台保育園)の「支援はこどもファーストで!」という言葉は印象深く記憶に残っています。その他にも映画『うまれる』を観て感想を分かち合ったり、障害のある子のきょうだいのことを考えたり、実り多い事例研でした。次年度もまた、どの子どもも活き活きと輝く保育のために携わる先生方のために事例研究会を充実させていきたいと思えます。



御園園長先生(みつわ台保育園)を囲んで



映画「うまれる」を観て仲間たちとの分かち合い

鈴木 由歌 (愛隣幼稚園)

## 特別支援教育研修会

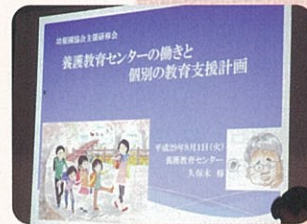
5月「保育者として子どもと向き合う姿勢」、7月「0.1.2歳児の育ちと愛着形成」「民間保育施設の働きと連携」、8月「言葉の発達で気になる子」「養護教育センターの働きと個別の支援計画」、2月「個別の教育支援計画—千葉県統一様式による個別の教育保育支援計画と小学校との連携—」という内容で研修を行いました。

幼稚園も時代の要請により未満児保育の実施や長時間保育などいろいろに変化している昨今、子どもの育ちや愛着形成について学ぶよい機会となりました。また、障害の有無にかかわらずさまざまな子どもたちが在籍している保育現場では、保護者や他機関と連携しながら子どもたちの育ちを支えていくことの大切さを理解しました。なかでも、「個別の教育保育支援計画」が千葉

市統一様式になるということは小学校へのスムーズな接続のためにも意義深いことだと思います。



障害のある子どもたちの見え方・感じ方を体験



千葉県統一版教育支援計画の活用に向けて

鈴木 朱美 (植草学園大学附属弁天こども園)



## 第1分科会

～より専門性の高い教師をめざして～を年間テーマに掲げて、今年度は、千葉市養護教育センター主任指導主事の久保木修先生、パネルシアター作家の月下和恵先生、絵画造形講師の大堀郁子先生、幼少年教育研究所顧問の兵頭恵子先生からそれぞれの分野を学びました。「一人ひとりの子どもの成長に向き合うために心のストライクゾーンを広く持つこと」「表現活動における制作や演出の際に大切なこと」「食生活の基本となる食育のヒント」など、園に戻った先生たちのその後の活躍が目に見えます。また、相互乗り入れにより、保育園やこども園の先生も研修会に参加され、情報を交換し合うことで新たな発見も生まれています。



～カラー紙粘土を使って見たこともないような新しい架空の生きものをつくりましょう～



～パネルシアターを作って演じてみましょう～

熊田 佳美 (子鹿幼稚園)

## 第2分科会

昨年度のアンケート結果を踏まえて、今年度は「みんなが楽しく参加して、役立つ研修」をテーマに企画をしました。

レクリエーションの研修では園児が喜ぶ室内・室外での楽しい遊びやゲームの具体的な指導法を学び、コミュニケーションの研修では保護者との信頼関係の構築を円滑にする方法を身につけることができました。また、さまざまな楽器を使った研修では、楽しい音遊びや可愛い合奏で盛り上がりました。そして貴重な体験となった太巻き祭り寿司の調理実習では、でき上がった素敵な太巻き寿司に感嘆の声が上がっていました。調理実習を通して和食のすばらしさも学ぶことができました。

今年度は実技中心の研修でしたが、毎回、参加者の笑顔と笑い声に溢れ、楽しく充実した研修ができました。



さまざまな楽器を使って、いろいろな曲をみんなで楽しく合奏



千葉県の伝統郷土料理である太巻き祭り寿司を楽しく調理

深浦 喜久雄 (ひまわり幼稚園)

## 第3分科会

今年度は、第3分科会として「絵本の読み聞かせの大切さ」「子どもの造形活動」「楽しい運動遊び」「保育に生かす食育」の4つのテーマで研修を行いました。

どれも保育者にとっては学ぶことの多い内容で、今まで思いもよらなかったことに気づかされたり、自分の保育はこれでよいのかと考えさせられたりすることがたくさんありました。参加して下さった先生方も、楽しみながらも真剣に学ぶ姿が見られました。私たち保育者はいくら勉強しても足りることはありません。自分が学び成長すれば、そのことが日々の保育に生かされていくからです。これからは目の前にいる子どもたちのために、さらに研修

を重ねていきたいと思います。



子どものやりたい気持ちを大切にしたい造形活動



先生が楽しんで運動していれば子どもに伝わる

和田 由美 (千葉敬愛短期大学附属幼稚園)

## 第4分科会

今年度も昨年度に引き続き『保育展開ですぐに役立つ』という希望にそえるよう検討しました。

『歌唱指導』はリズムの要素を取り入れた歌・ゲームを通して音楽の基礎を学び、講師の歌声もお聴きすることができ、心が震えました。パネルシアターでは『作って演じて保育に活かそう!』という講師の表現活動に感動し、参加者も情熱をこめて制作をおこないました。『子どもが育つ造形』ではいろいろな素材を使用して実際に感触を楽しみ、造形表現を重ねて楽しんでおこなうことにより感覚やイメージの育ちにつながっていくことを実感できました。『保育で活用できる絵本』では現代に生きる大人・子ども共に、絵本を通じてリアルコミュニケーション能力を開花させることの重要さに気づかせていただきました。各講師陣

をとり囲む係りの方、記録協力者ほか皆様に感謝を含め、さらに次年度に繋げたいと思います。



造形 いろいろな作品を楽しくつくりました



パネルシアターの配置の仕方でも場面の変化があります

中村 八重子 (千葉文化幼稚園)



## 第5分科会

ハーブの音色を聴いて、日頃の忙しさから癒された研修でスタートした第5分科会。さらに、リズム遊び・科学遊び、どの先生も興味を持って熱心に参加してくれました。園事情により参加できないことは残念ですが、研修を終えた先生は笑顔になります。研修が終わったことを実感します。10月の授業参観では、1年生が後期の今、どの様にどんな内容の授業を受けているのか、関心が高まりました。授業内容により、サポートの先生が援助してくれることも知りました。支援クラスでは、一人ひとり、自分の興味ある授業を受けていました。小学校にも協力していただき、研修に参加できることを

有難く感じます。研修に参加した先生が、元気になれることを常に願っています。



科学遊びについて



リズム遊びについて

関原 喜恵 (山王幼稚園)

## 第6分科会

今年度は“つくる”というテーマで行いました。

作品を作る (日本パステルホープアート協会インストラクター平沢あき先生)、姿勢をつくる (天野式リトミック指導者永倉英子先生)、心をつくる (ミネルヴァ心理研究所、心理カウンセラー森本邦子先生)、年長としての資質・能力をつくる (千葉市立白井小学校) です。

指で描くパステル画は、保育者の腕の見せ所、個性あふれる作品が完成しました。

リトミックでは、基本的な姿勢、安定した立ち方の指導も受け日常生活や習慣の大切さを再認識しました。幼児の心の発達では、大人がつくり出す環境に大きな要因があることを知り保育者の役割は重要だと感じました。

白井小学校の参観を通して幼児期の活動の見直しや小学校との積極的な連携が必要であることを確認しました。

話し合いは保育経験年数ごとのグループで行い、さらに保育園・保育所の先生も加わることで活発な意見交換、情報伝

達ができました。研修を終えた和やかな閉会の様子は研修テーマ“つくる”に沿い先生方の仲間づくりも加えられたように感じました。

子どもたち同様、保育者も仲間づくりが必要ではないかと強い思いがあります。諸事情で欠席される園がありますが各園1名は参加していただければ幸いです。



パステルで作品づくり



リトミック

今井 尚美 (認定こども園白梅幼稚園)

## 第7分科会

平成29年度の研修会も無事に終わりました。6月の「音あそび音まなび」では改めて身近に溢れている音を感じ、夏の研修では子どもたちの足を守る靴選びに目を向けたり、香りの効用を学び実際にアロマテラピーグッズを作ったりもしました。立場上関わる事が予想される現代のDVの現状について学ぶ機会を設け、また講演だけでなく、若い先生たちの研修のあり方について主任としてグループディスカッションのなかで意見を出し合い、その結果を研究委員会へと持ち帰ることもできました。皆さんにとって実り多き研修であったことを願い、次年度へと繋げていきたいと思ひます。



アロマテラピーの講師の先生の「香りの効用」についてのお話し



実際に先生たちが作ったアロマテラピーグッズ

日暮 さつき (千葉女子専門学校附属聖こども園)





# 幼稚園教育研究会(公開保育)を終えて

## 中央区

公開保育の日は、多くの先生方の来園にちょっぴりドキドキする子もいましたが、いつも通りの姿を見せる子どもたち。小雨模様の中、かまきりの餌探しをきっかけに傘をさして園庭へ。自分の傘に友だちを招き入れたり、雲梯にシートをかけると、お家みたいと中でくつつきながら笑い合ったり。雨が上がれば年長児を中心に遊具を拭いて、滑り台に、鉄棒に、水たまりで泥んこ遊びが広がることも。この日は大縄、ブランコ、砂場いつもの遊びも始まりました。お部屋では、花壇で育てたポップコーンをお料理、ホットプレートで温めると幼稚園中いい匂い、おいしい争奪戦が。

子どもたちは季節やその日ごとの自然を感じ、その日ならではの遊びを作り出しています。



雲梯にシートをかけて、隠れ家の完成!



みんなで育てたポップコーン、おすそ分け

宮内 さやか(羔幼稚園)

## 中央区

当日は、たくさんの大人の方に囲まれて少し緊張していた子どもたちですが、講師の亀谷先生の体操が始まると、いつも通りの笑いに包まれた楽しい時間となったようです。体を動かすことが苦手な子もいますが、亀谷先生は体操を通して互いを認め合うことや、思わず友だちを応援したくなる気持ちを子どもたちに伝えてくださいます。そのことが保育にも生かされています。いつもと違う雰囲気の中でしたが、年少の絵の具を使った活動も楽しく出来ました。あの時みんなで塗った作品は、今大きなお芋となって保育室に飾ってあります。

小雨の降るあいにくのお天気の中でしたが、たくさんの先生方にお集まりいただき、公開保育の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。



みんなで作った大きなお芋と亀谷先生の体操



佐藤 佐由里(双葉幼稚園)

## 美浜区

幼保連携型こども園に移行、園長に就任して3年目を迎えた今年、7年の間を置き公開保育の当番園となりました。午後も100人程度の園児の保育をしているため、参観者の受け入れを40人に抑えるなど配慮をしていただきました。

参観人数が少なかったこともあり、子どもたちは普段と変わらずに落ち着いて集中し活動に取り組んでいたように感じます。(写真は活動の中で作り上げた子どもたちの作品の一部です)そして何よりも一番の収穫は「こども園」になりシフトの関係上難しいと思われていた園内研修の取り組みができ、新教育要領を念頭に自分たちの保育を振り返り確認し話し合う場を与えられたことです。まだまだ不十分ですがこの取り組みが次へと繋がることを信じています。



年長さくら組と年少つくし組の作品



日暮 さつき  
(千葉女子専門学校附属聖こども園)

## 美浜区

年長組の「空気あそび」の導入部分を担当しました。

今回は、一つの題材について、複数の時間で学習していく単元活動を行いました。学年で指導案を作るにあたって、子どもたちにどんな学びや感動を与えられるか、活動のねらいと内容を何度も照らし合わせて吟味しました。当日は「袋をいっぱい膨らませて遊ぼう」という活動の中で、期待通りの子どもたちの反応を見ることができました。袋の大きさを複数用意したり、子ども自身で袋の口を結べるようなものを選んだりしたことも効果的に働き、子どもたちが楽しんで活動する様子が見られて良かったです。

今後も、一つひとつの活動について、ねらいを達成できる内容を検討し、教材研究を怠らず、質の高い教育を目指して取り組んでいきたいと思えます。



橋本 瑞生(認定こども園真砂幼稚園)



## 花見川区

本園では、80名の新規採用の先生方に参観していただきました。予想外の雨で受付を職員室で行うことになって、参観者の傘立てを用意して・・・慌ただしい朝になりました。

園児は普段と雰囲気が違うと感じながらも、いつものように友だちと遊び参観の先生方に話しかける姿も見られました。体を動かすのが大好きな年少児は「リズム遊び・表現遊び」年中・年長児は本園が重視している日本語のしぐみに基づく「ことば遊び」の主活動を見ていただきました。研究会を迎えるにあたり研修を重ねて、保育を振り返る機会になりました。ありがとうございました。



年長組のこたば遊び



年少組の表現遊び

竹澤 祐子 (花園幼稚園)

## 稲毛区

園庭の木々が色づき始めたころ、とうとう迎えた公開保育は、まさかの雨模様。朝から園全体が緊張気味でしたので、その空気を一新すべく本降りになる前に、全園児で園庭に出掛けました。ほんの僅かな時間でも、戸外で遊んだことでよい発散になり、いつもの流れを掴んで活動に向かうことができたように思います。そして、保育中は、参観の先生方も一緒に、子どもたちの気持ちを温かく受け止めて拍手で盛り上げ、参加していただきましたので、子どもたちが張り切って活動に入り込んでいる姿がとても嬉しく、安心して保育を進めることができました。

1年以上も前から公開保育に向けて取り組み、当日はどうなることかと心配していましたが、終わってみれば「子どもたちも先生も楽しかった！」心もほっぺも色づき、発見と実りの多い研究会となりました。



やってみよう! ピザ作り



はっぱでびっくり発表会

岡崎 桂子 (穴川花園幼稚園)

## 若葉区

当日は雨の中、近隣の小学校の先生方を含め約60名の方に参観していただきました。

たくさんの先生方に見られ、年中・年長児は緊張気味に制作を行いました。年少児は緊張することなく、いつも通りの姿で劇遊びの活動に参加していました。発表後に先生方から拍手をいただき、とても嬉しそうでした。

研究会を迎えるにあたり、改めて日々の保育を見直す良い機会になりました。また、分科会では他園の先生方と話すことができ、指導方法や各園の特徴なども勉強になりました。ありがとうございました。



年少児の劇遊び

宮原 直美 (千城台南幼稚園)

## 緑区

あいにくの雨に見舞われた公開保育で、当園自慢のかがみどの森や林で遊ぶ子どもたちの姿をご覧いただけなかったのは残念でしたが「生きる力を引き出す保育の実践」を研究主題に10クラスの保育を、100名あまりの参観者の皆様から熱心にご覧いただきました。

本園では「㊦おはにこにこ ㊦んばる子 ㊦んななかよく ㊦の子もいい子」の子ども像を掲げ、一人ひとりに必要とされる手だてを考え・講じることを通して、子どもたちの発達を支援することを目指してきました。まさにこの営みが、生きる力を引き出す保育につながっていると参観者の皆様から高く評価していただきました。また昼食時に提供した自園給食も皆様から「おいしい!!」と好評でした。



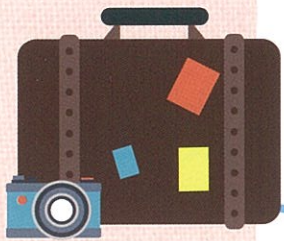
雨の林でおさんぽ  
(満3歳児クラス)



食すところく  
(年中組)

小松 礼子 (鏡戸幼稚園)





# 世界一周の船旅体験記

2016年4月12日～7月26日 (106日間)

NPO法人 郷土ちばに学び親しむ会 理事  
都幼稚園 元園長 高橋 明

退職を契機に過日、世界一周の船旅に出かけました。東南アジアからスエズ運河を抜け初夏の地中海更に北欧、カナダ、中南米を経てパナマ運河を回るコースです。航路や寄港地(24カ所)での体験、船内での様子などをお知らせします。

## 1 乗船した船と乗客の概況

豪華客船からカジュアルクラスまでさまざまな船が就航しているなか、たまたま今回乗船した船はピースボートのオーシャンドリーム号で、第91回クルーズに参加しました。船は全長205m、乗客定員は1422人です。ピースボートは国際交流の船旅をコーディネートするN G Oで、1983年に第一回クルーズが出港しています。昨年、ノーベル平和賞を受賞したI C A Nの日本における国際運営グループの一員です。

今回のクルーズで乗船した乗客は約1000人。乗客の約60%が女性、70歳以上が35%で、リピーターは約40%です。

## 2 主な寄港地と寄港地での活動

最初の寄港地はマレーシア、ボルネオ島のコタキナバル港です。港の近くに、東南アジアの最高峰キナバル山(4095m)があります。山の中腹にある世界遺産キナバル公園を訪問ボルネオ島の自然を体感しました。

その後、シンガポール、スリランカを訪問し、スエズ運河を抜け古代文明が待つ地中海の国々へ。キプロス・ギリシャの外港ピレウス、そして絶景の広がるサントリーニ島、イタリアのシチリア島と巡りました。途中、紅海の入河口であるソマリア沖では海賊対策として自衛艦の護衛がありました。

次にスペインのアルハンブラ宮殿、ポルトガルのロカ岬やベレンの塔、フランスのモンサンミッシェルなどを観光しました。ロカ岬はユーラシア大陸最西端で眼下に大西洋が広がっていました。以前より訪れたいところの一つで、ポルトガルの詩人カモンイスが「ここに地果て、海始まる」と詠んでいます。

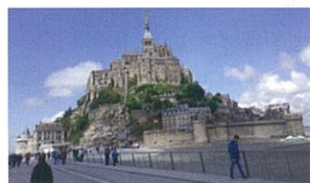
更にホワイトクリフが広がるイギリスのドーバー港、ドイツ第二の都市で中世ハンザ同盟の自由都市ハンブルグや



スエズ運河の航行



サントリーニ島からの眺望



モンサンミッシェル

リューベック、フィヨルドに代表される絶景が広がるノルウェーなど北欧諸国、ロシアのサンクトペテルブルクを経て間欠泉やグトルフォスの滝で名高いアイスランドを巡りました。

その後、北極海の流氷を眺めながら「赤毛のアン」の世界であるカナダのプリンスエドワード島を訪問しました。最終航路は南米ベネズエラ、カリブ海のキュラソー島、パナマ、グアテマラを経てハワイが最終寄港地でした。ハワイではワイキキやダイヤモンドヘッドの散策、真珠湾も訪れました。

寄港地での活動には大きく分けて二つあります。一つはピースボートが現地の旅行会社や国や市、N G O(民間団体)と協力して作り上げた有料の「オプションルツアー」に参加すること。もう一つは各寄港地を単独で、又は仲間と一緒に自由に動き回ることです。オプションルツアーは通常の観光ツアーの他に、交流や体験ツアーも用意されています。例えば、南米ベネズエラではベネズエラの教育現場訪問、子どもたちとの交流や日本人学校訪問、奇跡の音楽教育「エル・システマ」の魅力に触れるなど、盛りだくさんです。

## 3 船内の生活、あれこれ

106日間の船旅では、寄港地での活動以外は全て船内での活動になります。充実した船内生活を目指しさまざまな配慮やイベントが船会社より用意されていました。そのいくつかを紹介します。

### ◆「船内新聞の発行」

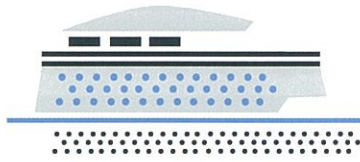
ほぼ毎日、A 3版の裏表で船内新聞が前日に発行されていました。船内の催しが「いつ、どこで、何を」が時系列で明示され、日の出、日の入りの時刻の表示、寄港地の情報や講演会の演題、講師の紹介、映画会の案内などたいへん役に立ちました。

### ◆「船内での多彩な講師(水先案内人)による講演会の開催」

航海中、国内外の各分野の専門家が約20名ほど途中から乗船し、訪問する国々の文化や社会問題などわかりやすく、楽しく講話をしてくださいました。

主な講師は、旭山動物園園長・板東元さん、水中写真家・大方洋二さん、昭和女子大学理事長・坂東真理子さん、料理研究者・枝元なほみさん、元朝日新聞中東アフリカ総局長・松本仁一さん、元日本農業新聞記者・大野和興さんなどでした。





#### ◆「船内イベントと洋上カルチャースクールや同好会、自主企画の開催」

船内では寄港地や行事に合わせ洋上運動会、夏祭り、餅つき大会などさまざまなイベントがあります。また、多数の講座が予定されており、その一つが洋上カルチャースクールでヨガや太極拳、社交ダンス、水彩画、パソコン教室などです。他にも自主企画や同好会など乗船者が特技を生かして立ち上げる講座も多数ありました。

#### ◆「船内の食事と病気やケガなど」

レストランは3カ所あり9階に2カ所と4階に1カ所です。9階では海を見ながら食事ができます。夕食は4階のレストランでコース料理になっています。早番(17:30～)



船から眺めた夕景

と遅番(19:30～)に分かれていました。食事の内容は総料理長が日本人ということもあり、和食が中心でおいしくいただきました。早朝のモーニングコーヒーや午後のお菓子付きアフタヌーンティーもあり、海を眺めながらよく利用しました。

また、医師や看護師も常駐し、いざという時に適切に対応していただけます。長旅の最後の数日に熱が出てお世話になりました。

## 4 106日間を振り返って

### ①心に残った景色

海を眺めるのが好きで、8階のプロムナードデッキや屋上のサンデッキで過ごすことが多かったです。船から眺める大海原と朝日や夕日、星空などとても心に残りました。



フィヨルドの航行

デッキの先端に海鳥が複数とまり、まるで水先案内人のようだったことや潮を吹く鯨や船と並行して泳ぐイルカを見ることができました。また、緑閃光と言われる日没や日の出の一瞬、太陽が緑色に輝くグリーンフラッシュ現象も運良く観察することができました。

各寄港地の自然景観、街並みや歴史的建造物などいずれも甲乙つけ難く素晴らしいものでした。

### ②さまざまな人との出会い

船には個性豊かな、魅力あふれる方がたくさん乗船していました。自転車を持ち込み、寄港地でサイクリングを楽しむ

方、鉱物の採集が趣味で、スリランカで宝石探しのツアーを自主企画された方、リピーターの女性で各寄港地ごとに繋船場で釣りを楽しんでいる方もいました。



スリランカの施設訪問

また老人ホームなどへの入所の代わりに度々船に乗っているという方、東京の元校長先生は体調が悪いのを我慢し奥様と一緒に「冥土の土産に」と乗船。下船時はとても元氣になられ、これからの抱負を手紙に綴っていました。

### ③最後に

世界一周の船旅の中で、スリランカやデンマーク、ベネズエラ、グアテマラでの参加型の交流コースでは、現地の学校や教育施設などを訪問しました。



カラカスの日本人学校での太鼓演奏訪問

ベネズエラの首都カラカスの日本人学校では子どもの数が6名と少ないなか、太鼓の演奏で迎えてくれました。



地球の裏側の日本人学校。充実した教育活動ぶりがかぐアテマラの子もたちの民族踊りがえました。グアテマラの現地の学校では先生方が全員、民族衣装で歓迎してくれました。言葉は通じなくとも毛筆で名前を書いたり、一緒に折り紙、腕相撲などで交流したりして笑顔が広がりました。

グアテマラの子もたちの民族踊り

寄港したギリシャのピレウス港ではシリアから逃れた難民のキャンプがあり多数の子もたちがいました。同じ地球上に暮らしながら、アジア、中東、北欧、南米と回る中で、宗教上の対立や内戦、政治上の混乱などが多くの国に残っていました。また、国により貧富の格差や社会基盤の整備などの面で大きな違いがあることも強く実感しました。国際化や情報化が一段と進展する今日、地球上から差別や貧困などの撲滅を念じつつ、厳しい環境のなかでも頑張っている子どもたちの幸せを願っています。



アイスランドのグトルフォスの滝



ハワイのダイヤモンドヘッドからの眺望



# 保育室の窓から



## 成長の振り返り

めぐみ幼稚園園長

杉森信幸

めぐみ幼稚園では「めぐみギャラリー」と称して、1Fホール脇のボードに園児の顔写真を展示しています。毎月のお誕生児を園長が撮影し、アップにした顔を2Lサイズにプリントしたものでおよそ一か月間展示した後、保護者の方にプレゼントしています。

多くの保護者の方は、3年間、2年間の写真を飾ってお子さんの“顔”の成長を感じられています。「幼児期の心の成長は顔に現れることが多い」と私の経験値から言えると思います。



日常の保育の中でも、先生方は子どもたちの顔を見て体調や心の動きを察知されているではありませんか。私も毎朝門の前で朝の挨拶をしながら子どもの表情を読み解くようにしています。

卒園を控えたこの時期だからこそ、私の撮った子どもたちのアルバムを見て振り返りながら、心の成長を喜びたいと思います。みなさんは、どんな“振り返り”をされていますか。

### 私の好きな絵本

「てぶくろ」

絵：エウゲーニー・M・ラチョフ  
訳：うちだりさこ  
出版社：福音館書店

絵本の中のでぶくろはこどもの心そのものです。どんなものでも受け入れ、心を豊かにしています。

## 味噌づくり

あやめ台幼稚園

上田彩加

あやめ台幼稚園では、11月に収穫まつりを行います。その時豚汁に使うのが、昨年子どもたちが作った味噌です。今年も年中組が来年度に向けて味噌づくりを行いました。味噌づくりの前には子どもたちと大豆を洗い、水につけておきます。一晚過ぎて大豆の様子を観察すると形や大きさが変わったことに気がつき、驚いたり、不思議がったりとさまざまな反応を見せてくれます。

味噌づくり当日、まずは煮て柔らかくなった大豆を味噌すり器に入れてミンチ状に潰していきます。



ハンドルを回すと大豆が穴から麺のように細長く出てくる様子に「スパゲッティみたい」「モンブランかな」と大喜びです。その後、潰した大豆と塩と麴を袋に入れ、感触を楽しみながら揉んでいきます。最後は空気が入らないように勢いをつけて甕(かめ)の中に投げ入れます。食べるものを投げるなんて普段なら絶対にできないことに少しドキドキしながらも思い切り投げ入れる子どもたちの顔は輝いています。

次に密閉した甕を開けるのは1年後の年長組になってからです。おいしく出来上がることを願っています。

### 私の好きな絵本

「ぼんたのじどうはんばいき」

作：加藤 ますみ  
絵：水野 二郎  
出版社：ひさかたチャイルド

自動販売機を作ったぼんたですが、出てくるものはみんな葉っぱを変えたもの。自動販売機の前で欲しいものをいう動物たちの願いを叶えようと一生懸命なぼんたの奮闘がかわいくて大好きな絵本です。

## 冬ならではの経験

植草学園大学附属弁天こども園

尾形光穂

「雪が降ってきた！」雨からみぞれに変わった様子を見て子どもたちから声が上がりました。その後雪に変わり翌朝には園庭に降り積もり、子どもたちは登園するとすぐに雪に触れ「冷たい」と言いながらも笑顔があふれていました。雪を掴んで投げっこが始まると、雪の塊がうまく取れる所を探し当て塊を投げ始める子ども、伝えなくても握って雪玉を作る子どもなどがいました。せっせと大きな雪玉を



数人で作り始める年長児がいて、雪だるま作りが始まったかと思っていたら、実は作戦を練って雪合戦中の保育者に投げる大きな雪玉を協力して作っているようでした。

園庭の雪は午後にはすっかり溶けてしまいましたが、この日この時ならではの経験を存分に味わう機会となりました。季節ならではの経験を見逃さず、五感を使って存分に感じ、発見や驚きを一緒に楽しんでいくことも大切にしていきたいと思います。

### 私の好きな絵本

「ぼくのぼん わたしのぼん」

文：神沢 利子  
絵：林 明子  
出版社：福音館書店

絵本を読みながら一緒に作っている気持ちになれるわくわく感があり、子どもの頃から大好きな絵本の一冊です。



# 視察研修会を終えて

11月24日、岩手県遠野市の「遠野聖光こども園」を訪れました。アンネ・S・ブゼル宣教師により県内5番目に開設された伝統ある



遠野聖光こども園

幼稚園です。遠野はマイナス25度から35度までの寒暖差があり、厳しい環境ですが、子どもたちは逞しく、クリスマス会の準備や雪遊びで賑わっていました。2013年には28名だった園児数が認定こども園に移ってからは増え続け、2年後に新幼保連携型に移行すると33名の未就園児も加わり、現在の123名の園児数になったそうです。

園長先生が礼拝の傍ら、手遊びや神様の歌を2歳児にもして下さる姿がこんなにも温かいのは、遠野が民話と伝説の里だからでしょうか。座敷わらし、きつねの嫁入り、オシラサマ等…懐かしい昔話の伝承を受け継ぐ語り部も減っているのが現実で

す。こども園でも新たな現象が起きつつあります。2号認定の子どもたちが増えると、長期休みに自宅にいる1号認定の子どもたちの仲間の確保が困難になってきています。「今までは休み期間に幼稚園に預けられる子どもの数の方が少なかったのですがこれからは逆転していくでしょう」と園長先生は締めくくられました。

日本の原風景や無形文化財の語りの文化が消滅の危機にさらされているように、子どもたちを取り巻く環境も変化を強いられています。教科書ではなく自分の耳で聞いて覚えてきたものだからこそ忘れない、人の心を揺らす魂のこもった語りになるはずで。どんな時代を迎えようと、一人ひとり違う子どもの育ちを大切に、強く逞しく豊かな人間に育てていかなくてはならないと深く心に刻む研修会となりました。

濱田 由紀子 (都幼稚園)



クリスマス会の練習



クラスの様子



語り部の方との交流



聖光こども園園長先生と共に記念写真



# おべんとう だあいすき

子どもも大人も大好きな♥ホットケーキ♥  
のお弁当です。ひと工夫して♥オムレツ風  
ホットケーキ♥もおいしいですね!いろいろなもの  
をはさむと栄養満点!

(若松台幼稚園 横森芳江先生のおべんとう)



♥ おべんとうレシピ ♥  
♥ ホットケーキのおべんとう ♥  
(ちびと食欲のたもとにちび)



## ♥ ホットケーキ ♥

• ホットケーキ (適量) (牛乳代わりにやわらか目に)



♥ スポン (大きいサイズ) ♥  
1杯分の分量どうやく伸ばすと  
食べやすいサイズになります。

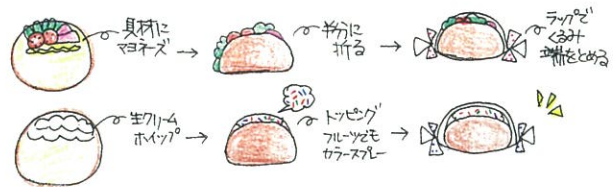
- ホイップクリームにカラースプレーをかける!
- グレープフルーツ、バナナ、いちじくなどのフルーツ
- 小さい容器に シロップやみどいれ



## ♥ オムレツ風ホットケーキサンド ♥

- ♥ ホットケーキ
- ♥ きゅうり
- ♥ ナイトマト
- ♥ ハム
- ♥ マヨネーズ
- ♥ ベビーリーフ (サラダ菜)

野菜ならなんでもいじょう  
ポテトサラダ、スパゲティーをはさんで!  
チーズトマトやアップルパイ風に  
生クリームにフルーツなども!!



## 編集後記

平成29年度もあとわずかとなりました。

今年度、新しい幼稚園指導要領改訂の告示がされました。それぞれの園では、すでに改訂の趣旨を受けて取り組んでおられることと思います。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が明記され今まで以上に家庭・地域の連携及び小学校教育等の密接な関わりを持つことが必要となっていきます。

それに伴い保護者の皆様にも充実した内容をお届け

けし、ご理解とご協力をお願いすることになること  
と思います。

広報委員会の定例会に於いては、皆様に更に興味  
と関心を持って読んでいただけるよう内容の充実に  
努めて参りたいと考えています。

皆様のご意見やご希望を是非お寄せいただき  
より良い広報誌になるようご協力をお願い申し上げ  
ます。

堀川 恒子 (小ばと幼稚園 副園長)